

**発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ  
就学时引き継ぎシート(例)・支援引き継ぎシート(例)**

高知県教育委員会

平成25年8月

## も く じ

### 1 引き継ぎシートについて

(1) 目 的 .....	1
(2) 引き継ぎシートの位置付け .....	2
(3) 個人情報の取り扱いについて .....	3
① パソコン等を使用する場合について	
② 文書の保存期間について	
(4) 保護者との連携について .....	3

### 2 保育所・幼稚園等からの小学校等への就学时引き継ぎシートについて

(1) 対象となる幼児 .....	4
(2) 作成にあたって .....	4
(3) 小学校での活用にあたって .....	5
(4) 引き継ぎのためのスケジュール .....	5
○就学时引き継ぎシート（様式例・記入例） .....	6
○保育所・幼稚園等の個別の指導計画（様式例・記入例） .....	13

### 3 小学校から中学校等への支援引き継ぎシートについて

(1) 対象となる児童 .....	17
(2) 作成にあたって .....	17
(3) 中学校での活用にあたって .....	18
(4) 引き継ぎのためのスケジュール .....	18
○小学校から中学校等への支援引き継ぎシート（様式例・記入例） .....	19
○引き継ぎに係る個人情報の取り扱いに関する同意書（様式例） .....	25

### 4 中学校から高等学校等への支援引き継ぎシートについて

(1) 対象となる生徒 .....	26
(2) 中学校での作成にあたって .....	26
(3) 高等学校での活用にあたって .....	26
(4) 引き継ぎのためのスケジュール .....	27
○中学校から高等学校等への支援引き継ぎシート（様式例・記入例） .....	28

この説明書では、発達障害等の特別な教育的ニーズのある子どもについて記載しています。

この「等」は、LD、ADHD、高機能自閉症等の診断のある子どものみを対象としているのではなく、診断のない子どもも対象にしているという意味で使っています。

# **1 引き継ぎシートについて**





















○就学时引き継ぎシート（様式例・記入例）

- フェイスシート（様式例・記入例）
- 支援状況シート（様式例・記入例）
- 就学サポートプラン（様式例・記入例）
- 引き継ぎに係る個人情報の取り扱いに関する同意書（様式例）

○保育所・幼稚園等の個別の指導計画（様式例・記入例）



























**3 小学校から中学校等への  
支援引き継ぎシートについて**







○**小学校から中学校等への支援引き継ぎシート（様式例・記入例）**

- **基本情報**
- **支援状況**
- **支援プラン**

○**引き継ぎに係る個人情報の取り扱いに関する同意書（様式例）**

















**4 中学校から高等学校等への  
支援引き継ぎシートについて**



## (1) 対象となる生徒

支援や配慮を必要とする発達障害等のある生徒のなかで、支援引き継ぎシートの内容を進学先の高等学校（または、特別支援学校高等部）に引き継ぐことについて保護者から同意を得ている生徒を対象とします。

## (2) 中学校での作成にあたって

支援引き継ぎシートは、個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づいて作成されるものであり、対象生徒の基本情報、中学校での支援状況、高等学校等入学時における学校生活についての3つで構成されています。

支援引き継ぎシートの作成にあたっては、日頃から保護者との情報交換を行って指導・支援に取り組むことが大切です。そのうえで、保護者に支援引き継ぎシートの作成の意義を十分に説明し、中学校での支援状況等を生徒の進学先の高等学校等に引き継ぐことについて、信頼関係に基づいた同意を得るようにしましょう。次ページの〈スケジュール例〉を参考にして、各学校の実情に合わせて取り組んでください。

### ■基本情報

対象生徒の基本情報を記載します。ここに示している各項目については、個別の教育支援計画や本人・保護者からの聞き取りなどを基に記載してください。

### ■支援状況

対象生徒の中学校での様子や支援の状況を記載します。記載にあたっては、各場面における生徒の様子や実際に行った支援方法、支援を行って変化のあったことなどをできるだけ具体的に記載してください。

### ■学校生活について

高等学校等入学後、2か月間程度の生活や学習場面で予想されることや必要と思われる指導・支援の方向性について記載します。記載にあたっては、特に支援や配慮が必要と思われる場面を選択し、予想されることや必要と思われる支援をできるだけ具体的に記載してください。

## (3) 高等学校での活用にあたって

高等学校では、特別支援教育学校コーディネーター等が中心となり、中学校から送られてきた支援引き継ぎシートの情報を基に、校内で関係教員やスクールカウンセラーなどを構成員とする当該生徒の支援について協議を行う

会（以下「校内委員会等」という）において、高等学校での対応等を検討し、個別の指導計画を作成するなど支援に向けた取組を速やかに進めてください。

なお、高等学校での支援引き継ぎシートの保存期間は、高等学校入学後5年間です。

#### （４）引き継ぎのためのスケジュール

支援引き継ぎシートを活用した引き継ぎについては、以下の〈スケジュール例〉を参考にし、各学校の実情に合わせて取り組んでください。

##### 〈スケジュール例〉

支援引き継ぎシートの作成と活用の流れ	
1月～2月 まで	<p>○適切と思われる時期に、保護者に対して支援引き継ぎシートの説明を行い、シート作成についての同意を得る（中学校）</p> <p>○支援引き継ぎシートの作成（中学校）※保護者同意も含む</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>入学者選抜</b> </div>
合格者登校日 以降	<p>○支援引き継ぎシートの送付（中学校）</p> <p>○支援引き継ぎシートの受け取り（高等学校）</p> <p>○中学校への聞き取り調査等の実施（高等学校）</p>
3月末	<p>○校内委員会等を開催し、高等学校での対応について検討（高等学校）</p>
4月初め	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>入学式</b> </div>
4月以降	<p>○個別の指導計画の作成（高等学校）</p>

※なお、校内委員会等の開催にあたっては、次のような外部資源の活用も考えられる。

- ・スクールカウンセラー
- ・対象生徒に関わる支援機関（医療・福祉・教育等）
- ・特別支援学校の教員

※また、4月以降の継続した支援にあたっては、この他にも、特別支援教育課の巡回相談員派遣事業の活用や県の専門家チーム（医師・大学教授）に相談するなどの方法もある。



## 中学校から高等学校等への支援引き継ぎシート

- 支援引き継ぎシート（様式例・記入例）
  - 基本情報
  - 支援状況
  - 学校生活について

支援引き継ぎシート(様式例)

(ふりがな) 氏名	出身中学校	
	記載者氏名	

■基本情報

学校生活や 将来について	本人の願い	
	保護者の願い	
得意なこと・興味関心のあること・好きな教科		
苦手なこと・苦手な教科		

現在受けている外部機関の支援(医療・福祉・教育等)

支援機関名	担当者	診断・服薬・支援の内容など

■支援状況

配慮や支援が必要な場面	支援	中学校での様子(長所・得意なことを含めた状況)	支援内容
生活面	生活リズム(昼夜逆転等)		
	遅刻・欠席等		
	食事		
	身辺処理(整理整頓等)		
	登下校・教室移動		
	危険認知		
	その他		
社会性	指示内容の理解		
	意思の伝達		
	人とのかかわり方		
	集団参加		
	ルールの理解・遂行		
	感情のコントロール		
	注意の集中・持続		
	その他		
身体機能面	疾病・身体機能		
	見え方		
	聞こえ方		
	姿勢保持		
	体の動かし方・手先の動き		
	その他		
学習面	教科		
	読むこと		
	書くこと		
	計算		
	家庭学習(テスト勉強含む)		
	その他		

支援引き継ぎシート(記入例)

(ふりがな) 氏名	○○ ○○	出身中学校	△△市立△△中学校
		記載者氏名	□□ □□

■基本情報

学校生活や将来について	本人の願い	・パソコンを上手に使えるようになって、ゲームソフトのプログラムを開発したい。 ・大学に進学したい。
	保護者の願い	・友達とトラブルを起こすことなく高校生活を送り、無事に卒業してほしい。
得意なこと・興味関心のあること・好きな教科		・漢字を読んだり書いたりすること。パソコンで文字や図を作成すること。ゲームをすること。
苦手なこと・苦手な教科		・初めての場所、初めて出会う人とコミュニケーションをとること。

現在受けている外部機関の支援(医療・福祉・教育等)

支援機関名	担当者	診断・服薬・支援の内容など
(支援を受けていれば、記入してください。)		
支援を行った項目に○を記入してください。		生徒の特性に応じて、実際に行った支援に関するのみ記入してください。

■支援状況

配慮や支援が必要な場面		支援	中学校での様子(長所・得意なことを含めた状況)	支援内容
生活面	生活リズム(昼夜逆転等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2～3回、混乱したり困ったりしているときに、欠席が数日続くことがある。</li> <li>・教室内で使う物品などの置き場所が違っていると、強いストレスを感じる。</li> <li>・手順やルールが決まっていることは、しっかりと守ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人からよく話を聞き、ストレスを感じた原因をできるだけ取り除く。</li> <li>・教室や特別教室では、物の置き場所を決め、視覚的に分かるよう表示をしたり、専用の箱を準備したりする。</li> </ul>
	遅刻・欠席等	○		
	食事			
	身辺処理(整理整頓等)	○		
	登下校・教室移動			
	危険認知			
その他				
社会性	指示内容の理解	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉場面での口頭による指示は聞き漏らしていることが多いが、絵などの視覚的な情報があれば、理解がよくできる。</li> <li>・初めてあった人と目を見て話をしないことから誤解されやすく、新しい友達ができにくい。</li> <li>・強いストレスを感じると、イライラした様子や落ち着かない様子が見られる。</li> <li>・人の動きなどの視覚的な刺激によって、集中が途切れる。</li> <li>・携帯電話に依存し、ネット上で対人関係のトラブルがあり、保護者から相談があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静かになったところで、明確に伝えたり視覚的な手がかりを使って伝える。</li> <li>・共通の趣味をもつクラスメートと近づける機会を意図的に仕組む。</li> <li>・他人と話をするときは、「顔を向ける」ことを本人と決めた。</li> <li>・ストレスを感じている様子が見られたら、その日のうちに本人と話し、教科担当等から話を聞く。</li> <li>・周囲の動きが目に入りにくいように、座席を教卓に近い席にする。</li> <li>・本人と保護者、スクールソーシャルワーカーで携帯電話使用のルールを決める。</li> </ul>
	意思の伝達			
	人とのかわり方	○		
	集団参加			
	ルールの理解・遂行			
	感情のコントロール	○		
	注意の集中・持続	○		
その他	○			
身体機能面	疾病・身体機能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・手先が不器用で、布を裁断する、ボタンをつけるなどの作業が苦手だが、真面目に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別にスモールステップで指導して、できた経験を重ねるようにした。</li> </ul>
	見え方			
	聞こえ方	○		
	姿勢保持			
	体の動かし方・手先の動き	○		
その他				
学習面	教科	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割や課題提出の内容・期日などをプリントにして配付すると、授業の準備や課題の提出が確実にできる。</li> <li>・技術・家庭、美術、理科などで、ものづくりをする際に、複数の指示をされると、情報処理が困難になり、学習が進まなくなる。</li> <li>・自分で見通しを立ててテスト勉強することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の流れを視覚的につかみやすいように、ワークシートに手順を示し、使う道具の名称だけでなく、イラストや写真も入れるようにした。</li> <li>・テスト勉強のスケジュールを担任と作成した。</li> </ul>
	読むこと			
	書くこと			
	計算			
	家庭学習(テスト勉強含む)	○		
その他				



中学校3年間で伸びたところ	効果的であった支援内容
・自分の気持ちが抑えられなくなるような場面が少なくなり、自分で気持ちをコントロールできるようになってきた。	・本人が納得するルールを本人との合意で決める。 ・空き教室などを気持ちを落ち着ける場所として決めておく。

■学校生活について

高等学校入学後、4月から5月の学校生活について		
【支援や配慮が必要と思われる場面の例】 入学式 対面式 身体測定 スポーツテスト カリキュラムガイダンス(科目選択等) 遠足 宿泊研修 昼食 休み時間 ホームルーム活動(LH・特別活動など) 教科(授業) 部活動 仲間づくり(コミュニケーション)		
場面	予想される姿	必要と思われる支援
入学式・対面式等	・式の時間的な目途や自分の着席する場所が分からなければ、生徒はストレスを感じるのではないかと。 ・入学式等に参加できないと、その後の学校生活へのつまずきになると思われる。	・入学式の前に生徒に校舎内を確認させるとともに、安心スペースを使用できることを伝えて、生徒と使用ルールを決める。 ・式の流れ、時間的な配分等をプリントで事前に知らせる。 ・入学式以前に会場や着席場所を本人と確認しておく。
身体測定・スポーツテスト	・測定場所や順序など、複数の情報や指示が提示されると混乱し、測定やテストができなくなるのではないかと。	・測定場所や順番、時間的な目途をプリント等で事前に知らせる。 ・個人行動ではなく、集団行動にする。
遠足・宿泊研修	・知らない人の中で話をすることが苦手なので、仲間作りができなかったり、活動が楽しめなかったりするのではないかと。	・中学校からの仲の良い友だちなど旧知の生徒を入れてグループ編成を工夫する。
ホームルーム活動	・友だち関係が作られていない中での自己紹介やグループでの話し合いなどに、生徒は強いストレスを感じるおそれがある。	・自己紹介や意見を述べる活動では、話す内容を事前に作成してから発表するようにする。 ・早い段階で一人一人の違いを認め合える取組(エンカウンター等)を行う。

その他留意する事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時に相談できる教員や気持ちを落ち着かせるための安心スペースを決めておく必要がある。</li> <li>・生徒の特性に配慮した声かけをする。</li> <li>・先の見通しがもてない、人間関係のトラブル、学習が進まないときに不安やストレスを感じる。</li> <li>・昼食については、一人で食べられる場所を確保して、利用してよいことを本人に伝え、教室か別室かを本人が選択できるようにすることが望ましい。</li> <li>・パソコンに興味があるため、パソコン部に入部すれば、新しい学校生活への意欲を高めるきっかけになると考えられる。</li> <li>・保護者は本人の特性を理解しており、学校への要望も具体的に提案があり、協力的である。</li> <li>・貴校への入学は第一志望ではなく、新しい学校生活への意欲が低下していることが考えられる。</li> </ul>

本シートを進学先の高等学校へ提供することに同意します。

平成 年 月 日  
保護者氏名 印

以上のことについて報告します。

平成 年 月 日  
校長氏名 印